

伝えたい情報を正しい英文で書くことができる生徒の育成

～『音声→視覚→表現』の学習ステップにモデル文の活用を取り入れて～

特別研修員 外国語 中山仁（中学校教諭）

生かしたい点

生徒の実態

- ・英語の音声に慣れ親しんでおり、基本的な表現を聞いて概要が分かる。
- ・英語を話す活動に意欲的に取り組んでいる。

改善点

- 英語を「書くこと」に苦手意識をもっている。
- 正しい語順で英文を書くことが苦手。
- 書きたいことを英語で表現することが苦手。



目指す生徒像

伝えたい情報を正しい英文で書くことができる生徒

仮説

- ・英語の音声から導入すれば、英文の内容を理解しやすいであろう。
- ・視覚に訴える方法で英文を提示すれば、正しい語順を理解できるであろう。
- ・表現する活動をグループで行うことで、学び合いながら英文を作れるであろう。

モデル文とは？

生徒が正しい語順で伝えたい情報を書く際に参考にする英文

「音声→視覚→表現」のステップを授業に組み込めば、学んだモデル文を活用して英文を書くことができるようになるのではないかと？

【 授業実践 】

音声によるモデル文の導入

He has a pocket.
He likes Dorayaki.
He doesn't like a mouse.
He lives in Nobita's house.
Who is he?



ALTの音声で導入

どんなことを言っているのかな？

likeにsがついてたな。

何となく分かったぞ！

やっぱりそうか！

音声を助ける映像ヒント

視覚に訴えるモデル文の提示



色分けしたセンテンスカード
(主語と動詞は他の単語に変えられる。)

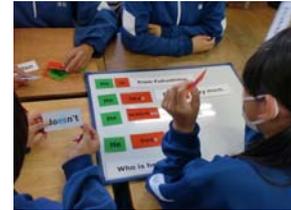
最初が緑、次が赤なんだな。

ALTの先生はこんなふうに言ったのか！



ICTの活用

モデル文を活用した表現活動



グループで英文を作る活動

さっきの色分けを参考に考えよう。

グループだから取り組みやすいね！



英文の内容を当てるクイズ大会

英文は黒板に掲示し、これもモデル文として活用します！

成果

- 音声で導入した英文や、グループ活動で作った英文をモデル文として、スクリーンや黒板に提示したことで、そのモデルを活用しながら、自分が伝えたい内容を書くことができた。
- 色分けカードを用いたことで、同じ色のカードを並べて英文を組み立てるなど、正しい語順を意識して英文を書くことができた。

課題

- 伝えたい情報の内容をより深めるために、モデル文として示す英文の内容をさらに充実させるとともに、よく使われる表現を織り交ぜながら、英文に触れさせていく。
- 英文の根幹である主語と動詞に着目して色分けしたが、それ以外の扱いが不十分であった。フレーズに着目させるなど、「主語」「動詞」以外の部分をどのように示していくかを検討し工夫していく。

一生徒の書いた作品(抜粋)

She's a member of the brassband club.
She wants a sneaker.
She often watches "TUTUQ."
She likes Osushi. But She doesn't like Medamayaki.

学習ステップを通して学んだモデル文を活用し、伝えたい友達の情報正しい語順で書くことができた。